

12月21日にWEB会議を開催

協会関東支部が事務局を務める建設産業専門団体関東地区連合会(略称・関東建専連、会長大崎精一郎当協会副会長、関東支部長)は、令和2年12月21日(月)、国土交通省関東地方整備局(関東地整)幹部との意見交換会を開催した。



関東地整幹部(左から2人目が土井局長)

意見交換会は、年2回、対面会議方式で実施されてきたが、6月は中止となった。今回の12月期意見交換会は、同ウイルス感染症感染防止の観点からWEB会議方式での実施となった。

当日は、関東地整から土井局長、滝澤副局長をはじめ幹部8名、関東建専連から大崎会長をはじめ幹部6名が出席した。

関東建専連は、「下請企業の見積もりの尊重」等3課題について現状説明と要望を提出した。要望に対して関東地整は、取組み状況等の説明等を行った。

「下請企業の見積もりの尊重」

公共工事設計労務単価は、能力評価基準のレベル2に相当する額であることを国土交通省も認められている。日建連においても、建設技能労働者の平均年収を全産業平均にまで引き上げることを目的に下請の見積を尊重することを宣言していることを確認。

行政に労務費の内訳を明示した見積書の尊重状況の監視・指導を要望した。

これに対して、担い手確保のためには賃金を含めた処遇改善が必要であるため、CCUSの技能レベルに応じた賃金支払に向けて標準見積書の改訂作業を進めていること。

適切な賃金支払いについては、国土交通大臣から建設業4団体に向けた要望や、年2回発している各行政部局への通達においても要請している。現在試行している労務費見積尊重宣言促進モデル工事などを含めて対応するとした。

「公共・民間工事を問わず建設現場へ建設キャリアアップシステム(CCUS)のカードリーダーの設置」

CCUSは建設技能労働者の技術・技能を見える化し、レベル毎の給与の実現等の処遇改善のための基幹制度であり、国と各団体がそれぞれの立場で、できる取り組みを推進することを確認し合っている。にもかかわらず、現状はカードリーダーが設置されていない。

本来の目的でもある就労履歴を蓄積できていない状況にある。元請企業への全建設現場へのカードリーダー設置の指導。さらに、入札参加条件へのCCUSのカードリーダー設置の条件化、モデル工事以外の工事でのカードリーダー設置の標準仕様化についても要望した。

関東地整は、今年度から原則WTO一般土木において義務化し、カードリーダー設置義務化モデル工事9件を公告したこと。群馬県、山梨県では、業界の要望に基づきCCUS活用推奨モデル工事についてカードリーダーの設置費用等を支払うこととしている。まだ標準化には至っていないため本省に伝えると回答した。



「CCUSのレベル4の実効ある評価」

登録基幹技能者は、若者が目指すべき技術・技能と給与等の処遇目標となるものであるが、評価に見合った年収にはほど遠い。

登録基幹技能者を配置する専門工事業者が下請けに指名されるといった、実効性のある評価制度があれば、有資格者を育てている企業の業績が上がり、建設技能労働者の処遇改善にもつながられる。登録基幹技能者の配置を入札時要件または設計図書に明示するよう要望した。

関東地整は、登録基幹技能者活用・促進を図るため、令和元年11月から登録基幹技能者活用促進モデルを埼玉県、千葉県、神奈川県に登録鉄筋基幹技能者を対象として取組んでいると回答した。

この後、それぞれの立場でできる取り組みを推進していくことや、協力し合うことを確認し、閉会した。